

社会

防災意識を高める社会科学習の在り方 —対話的な学びを通して多角的に考える力を育成する防災学習—

松戸市立北部小学校教諭（前我孫子市立我孫子第三小学校教諭） 田口 敬一 たぐち けいいち

前任校がある我孫子市は、過去に洪水の被害を受けてきており、児童の防災意識を高めることが大切であると考えた。本研究は、4年生の「自然災害から人々を守る活動」の学習を通して、防災意識を高めるには地域の実態に合った防災学習の単元を開発し、その中で、対話的な学習活動を意図的に設定し、様々な人の立場に立って考える力、すなわち多角的に考える力を育成する実践が有効であると考え、単元や授業の構成を工夫した。身近な地域の実態を調べた後、他地域の学習へと広げ、もう一度身近な地域の防災学習に取り組み、対話的な学びを充実させ、多角的に考える力を育成することで、地域の一員として、防災学習を自分事として捉え、防災意識を高めることができることが明らかとなった。

社会

地理的分野における社会参画意識を育む授業づくり —当事者として身近な地域の在り方を構想し、提案する実践を通して—

八千代市立村上東中学校教諭（前船橋市立大穴中学校教諭） 須釜 昇平 すがま しょうへい

中学校社会科地理的分野の内容である「地域調査の手法」と「地域の在り方」を結び付けた「身近な地域の在り方」の単元構成開発及び授業実践が社会参画意識を育むために有効であることを明らかにするため、基礎的理論研究と検証授業を行った。その際に、小学校社会科で用いられる人々の工夫、努力、願いという視点を中学校社会科において取り入れた。事前・事後アンケートの比較、各時間の振り返り等について分析した結果、社会参画意識の高まりが見られた。特に、「地域調査の手法」と「地域の在り方」を結び付けた単元構成と地域の人々の工夫、努力、願いという視点を取り入れることや地域の人々との関わりが社会参画意識を育む上で有効であることが明らかとなった。

算数

算数科における統合的・発展的な考え方を育成する指導の研究 —付箋紙を用いた思考の記録の活用を通して—

匝瑳市立椿海小学校教諭（前同市立平和小学校教諭） 齋藤 寛 さいとう ひろし

統合的・発展的な考え方を育成するために、思考を記録させていく。思考は、「考え」と「発展」という観点から付箋紙に記録させる。「考え」の付箋紙は、友達と共有することで共通点を見だし、統合させていく。「発展」の付箋紙は、原問題から適用範囲を広げるために使用させる。その結果、他者との考えを共有したり比較したりして、自分の言葉で学習をまとめ、原問題を基にして適用範囲を広げるための発展問題に取り組む児童が増えた。このことから、統合的・発展的な考え方を育成するために、思考を記録し、活用できるような指導方法が有効であることが分かった。

算数

プログラミング的思考の要素を取り入れた数学的な思考力を高める算数指導
ーフローチャートを用いて、計算の仕方を考える活動を通してー

銚子市立春日小学校教諭（前同市立船木小学校教諭） 齋藤 淳司

本研究は、プログラミング的思考の要素である「試行錯誤」や「修正」に着目し、解いた問題を振り返ること、計算の仕方を試行錯誤、修正しながら考えること、計算の仕方をフローチャートに表すことを取り入れることで、数学的な思考力を高められるかを明らかにすることを目標とした。そのため、文献研究・教材研究を基に、第5学年「異分母分数の加法・減法」の単元構想、実践、分析を行った。その結果、児童は計算の仕方を深く考え、数学的な思考力が高まった。また、手順の修正を通して、振り返ることのよさを実感した。しかし、異分母分数の加減計算の意味の指導が足りず、通分や約分への理解に課題が残った。

理科

アサガオに替わる植物を使った授業展開の実践的研究
ー「受粉・結実」を共通性・多様性の視点で捉えていくための授業開発ー

習志野市立大久保東小学校教諭（前同市立東習志野小学校教諭） 高橋 優樹

小学校第5学年「植物の受粉、結実」の単元では、児童によるアサガオの実験が困難だという実態や、植物が開花、結実して子孫を残すことの共通性について、あまり理解が進んでいないことが課題として明らかになった。そこで、児童が操作しやすく、期待した結果を得やすいと考えられるキキョウを主教材に据え、さらに多様な植物が子孫を残すための共通の仕組みを備えていることを捉えられるよう、教材と単元構成の工夫を図ることにした。その結果、キキョウは実験操作がしやすく、結実率が高いなど受粉実験の教材として有望であることや、児童が開花と結実を植物の共通性として理解することに一定の成果が得られることが明らかになった。

体育

体育科における『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた学習指導の在り方
ー戦術アプローチによる思考力、判断力、表現力を高めるネット型ゲームを通してー

柏市立柏第一小学校教諭 巻島 瑛貴

体育科の授業において、主体的・対話的で深い学びを実現し、思考力、判断力、表現力を高めるため、中学年を対象に、戦術的課題が強調された教材の工夫と課題解決に向けた学習過程の工夫を手立てとして、プレルボールを簡易化したネット型ゲームを行った。

「課題解決に向けた学習過程の工夫」として、戦術アプローチの視点を取り入れた「ゲーム→探求の時間→ゲーム」という学習展開を実施したり、課題をキーワード化したり、分析シートを使った作戦の修正や立案に取り組ませたりした。児童の関心は戦術的課題の解決に向き、アタック時における空きエリアやコースの選択など「返球の意思決定」のパフォーマンスの向上、学習カードの記述や話し合いにおける発話の質的向上が見られた。

技術・家庭

生物育成の技術における学習指導の方法 －「生産方式」を取り入れた栽培の学習を通して－

南房総市立富浦中学校教諭 やまだ ゆうや 山田 裕也

本研究では、「社会を意識した製品」を生産する授業を生物育成の技術の領域で展開したいと考えた。題材は地域の特産品である「房州ピワ」とした。ただつくるだけでなく、ピワの育成から収穫・販売を経て、その結果から次の生産につなげる手立てを検討することで、生活や社会と生物育成の技術に関連付けて学習できると考えた。本実践では、社会的な生産プロセスに基づいて単元を構成する「生産方式」という学習指導の方法を取り入れた。生産したものを収穫・販売したことで、生徒が技術を評価し、生産者の立場と消費者の立場の両面から、管理方法や販売方法を見直そうと考えるようになった。「生産方式」は生活や社会と生物育成の技術との関わりを学べる学習指導の方法であると考えた。

総合的な学習の時間

総合的な学習の時間における評価規準の精緻化による「学びに向かう力、人間性等」の育成 －社会情動的スキルやビッグファイブ理論をふまえた評価規準の作成－

流山市立八木南小学校教諭（前同市立小山小学校教諭） すがぬま えりか 菅沼 得理香

総合的な学習の時間における「学びに向かう力、人間性等」を育成するために、第5学年において「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定した。評価規準を具体的に言語化することにより、教師は授業の中で適切な見取りを行い、適切な学習活動を形成することができた。更に、児童の行動や記述等から、前向きな態度が増えたことが分かり、評価規準の精緻化が、「学びに向かう力、人間性等」の育成に有効であることを明らかにすることができた。

評価規準の設定に当たっては、OECDの報告書（学びに向かう力）にある「社会情動的スキル」と、ゴールドバーグの「ビッグファイブ理論」を取り入れ、検証を行った。

その他

学校現場における教員のコンプライアンス －A市立中学校教員の意識調査を中心に－

船橋市総合教育センター副主査（前船橋市立小室中学校教諭） かねさか いづみ 金坂 いづみ

近年、価値観の多様化が進み、権利・義務の視点から学校や教員との関係を捉えようとする保護者が多く見られる。この「学校教育の法化現象」とどのように向き合うかは、学校経営の課題といえる。本研究は「スクール・コンプライアンス」をキー概念とし、説明責任を果たすという観点から、課題の克服を目指すことを最終目標とする。その第一段階として、中学校教員を対象に「コンプライアンス意識に関する調査」を実施した。その結果、管理職、一般教員ともに保護者対応に困難を抱えていること、学校現場における法的知識の必要性を感じていること、またコンプライアンスという用語の認知度は高いが、理解度、求める研修については差異が見られることが明らかになった。

インクルーシブ教育

特別支援学校、中学校の交流及び共同学習（学校間交流）に対する概念と意識の調査を基にした「授業プランニングシート」開発に関する研究－思考ツールを用いた校内研修による実践を通して－

県立君津特別支援学校教諭 かんだ よしつぐ 神田 慶嗣

特別支援学校と中学校の教員が協力・協働して、学校間交流の授業を円滑に計画することができる点を目的として取り組んだ。調査の結果（概念と意識の違い）を基にして「授業プランニングシート」を作成し、教員が授業を計画する際に有効なツールとなった。「学校間交流のための校内研修」では、本シートを活用した話し合いを通して、目的や意義、生徒に何を学んでほしいかが明確になり、教員同士の共通理解も図ることができた。また、教員がすぐに活用できる「学校間交流の授業の進め方（ハンドブック）」も作成した。これらが、障害のある生徒と障害のない生徒が互いの良いところに気付き、知って、尊重し合える「共生社会」実現の一步に向かうことを願っている。

企業等派遣

先進企業に学ぶこれからの働き方 －学校教育のさらなる充実を目指して－

県総合教育センター指導主事（前県立松戸高等学校教諭） あだち まさあき 足達 正明

今後、学校をより弾力と体力ある持続可能な組織へと再構築していくためには、その基盤となる私たち教員の働き方やその姿勢についてこそ見つめ直していく必要がある。ベネッセコーポレーションで、学校業務の効率化において有益と考えられるICTツールやそのノウハウに関して学び、考察できたことは有意義であった。何よりの学びは、学校教育へのより良い支援の在り方を常に模索する社員の方々の、真摯かつ情熱に満ちた姿勢と、職務遂行に求められる非常に高いコミュニケーション能力だった。本研修での気付きと学びをもとに、働き方改革による学校教育の充実に向けた流れを支えていけるよう、これからの自身の業務に、より一層主体的、自律的に臨んでいく。

企業等派遣

組織における効率的なマネジメント経営について －業務効率化、ホスピタリティの実現を組織的体制に学ぶ－

県立松戸特別支援学校長（前県立四街道特別支援学校教頭） はらぐち あきお 原口 明雄

公立学校共済組合千葉宿泊所ホテルポートプラザちばは、公的な側面を有した企業体であり、社会貢献としての取組や組織の業務効率化、ホスピタリティの実現に向けた優れたノウハウを有している。研修を通して企業の地域連携、危機管理、効率的な経営マネジメントについて学ぶことを目的に、組織内の全ての課に所属し研修を深めた。今日の厳しい経済状況下、「お客様ファースト」であり続けるための企業努力に触れ、学校教育に求められる“すべては子どもたちのために”という「児童生徒ファースト」の学校経営に欠かせない重要な視点について学ぶ機会となった。5年後や10年後を見据えたホテル全職員の経営への参画意識を参考に、今後の「学校づくり・人材育成」に活かしていく。